



1500人 手拍子で心一つに

地域との絆をいつまでも大切に

弊社は群馬で創業し、全国展開するアミューズメント施設「D'ステーション」をはじめ、フィットネス、フェンシングクラブ、温浴施設、飲食などを運営しております。社名の「NEXUS」の由来の通り、1995年に沼田市でのD'ステーション1号店の創業以来、お客さまや地域との「絆」を強めることで、地域社会に愛される店舗運営を志し、地道な企業活動を続けて参りました。おかげさまで弊社の中核事業のD'ステーションは全国62店舗まで拡大し、本年4月には桐生市に温泉とフィットネスを融合した「天然温泉ゆらぶ桐生店」をオープンすることができました。これもひとえに皆さまのご愛顧の賜物と深く感謝申し上げます。

同時に、各地域において企業の社会的責任として、創業以来、スポーツ振興や地域振興、広域社会福祉の分野でさまざまな社会貢献に力を注ぎ、さらに発展させたSDGsへの取り組みとして継続させております。スポーツの分野では、日本フェンシング協会の支援に深く関わり、2009年に「NEXUSフェンシングクラブ」を創設。昨年夏の東京五輪では弊社所属の見延和靖選手が男子エペ団体チームをけん引し、金メダル獲得の快挙を成し遂げました。日本のフェンシング界にとって初の金メダルでした。今後もフェンシング界のさらなる発展のため尽力して参ります。

10年からはモータースポーツの支援も始め、17年に「D' STATION RACING」を創設以降は国内自動車レースに本格参戦し、優秀な成績を取って参りました。現在は活動の場を海外にも広げ、ル・マン24時間レースに代表されるFIA世界耐久選手権(WEC)シリーズや、アジア・ル・マン・シリーズなど世界的に有名なレースにも挑戦しております。今年も自国開催の富士スピードウェイで、最後尾スタートからの大逆転で3位入賞に輝くことができました。

そして、文化芸術活動支援の一環として群馬交響楽団さまの演奏でクリスマスにクラシック音楽を気軽に楽しんでもらおうと13年に始めたのが、このアットホームコンサートです。毎年、大勢の人に喜んでいただき、今回は昨年の再開から9回目の開催となりました。コロナ禍の先の見えない不安を乗り越え始め、地域の皆さまとの絆を強める場をお届けできたことを本年も心よりうれしく思います。

関わる人すべてが笑顔になれるよう「幸福度No.1企業」を目指し、これからも県民の皆さまと共に喜びや楽しみ、成長を続けていけるよう関係者の皆さまに御礼申し上げます。

NEXUS株式会社 取締役 社長執行役員 星野 正史



東京五輪での活躍はもちろん、今年7月の世界選手権男子エペ個人で日本選手初の銀メダルを獲得した見延和靖選手



各自動車メーカーがしのぎを削るレースにプライベートチームとして世界水準の活動と結果を出し続ける「D' STATION RACING」



青島さんの話 毎年、前回好評だった曲を生かし、新たに紹介したい曲を加えてコンサートを作成しています。聞いたことのある曲もあれば、初めて耳にした曲もあったと思います。この素晴らしい劇場で、音を、雰囲気を楽しみ、手拍子やハミングで参加することの喜びを存分に味わってもらえたと思います。ここで体験が皆さんの新しい原点になることを祈っています。

青島トークに沸く 曲の合間に青島さんが曲が生まれた背景などをエピソードたっぷりに語る。会場は笑いに包まれた。第2部は、ヨハン・シュトラウスの喜劇「ワルツ」の序曲でスタート。続いて「おおかみはみどり」も森へ行きましょうと、昨年のコンサートで好評だったNHK「みんなんのうた」で歌われた曲を、赤星啓さんが透き通るようなソプラノで、小野勉さんが表現力豊かなテノールで歌い上げた。コンサートの目玉の一つは、歌手と観客が声を合わせて会場が一体となる大合唱だが、コロナ禍のため、昨年が続いて大きな手拍子で盛り上がりを見せた。四



NEXUSの活動紹介 会場では、アミューズメント事業などを展開するNEXUSの多彩な社会貢献活動のほか、昨年の東京五輪で日本初の金メダリストを輩出したフェンシングやモータースポーツの活躍を紹介する映像が流れた。

高崎市のクリスマスの風物詩として定着した「第9回アットホームコンサート クリスマスの贈りもの～原点の名曲とともに～」(上毛新聞社主催、NEXUS特別協賛)が12月22日、高崎芸術劇場大劇場で開かれた。8000人を超える応募者の中から抽選で無料招待された約1500人が、作曲家やピアニストなどとして幅広く活躍する青島広志さんの指揮による群馬交響楽団の演奏を堪能した。

「原点」テーマの名曲 本格的なクラシック音楽を気軽に楽しんでほしいと、2013年から始まった。「題名のない音楽会」二世界一受けたい授業」などのテレビ番組でおなじみの青島さんが第1回から携わり、指揮や構成を担当している。オープニングを飾ったのは、エルガの行進曲「威風堂々」(第1番、エルガーを生んだ英国では第2の国歌と言われるほど愛されている。青島さんが客席に向かって大きく手を振ると、観客は手拍子で心も早くも舞台と客席が一体感に包まれた。今回のテーマは「原点」。「原点」を見つめ直し、つながらの大切さを感じながら次の時代の一歩を築けるようにとの思いを込め、群衆などのゆかりの名曲を選んだ。

高崎市民オーケストラとして発足した群衆にまつわる曲として、1946(昭和21)年の第1回定期演奏会で演奏したモーツァルトの「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」から第1楽章を選曲した。今年、135周年を迎えた上毛新聞の1887(明治20)年の創刊にちなみ、この時代からクリエーターの「マール・ギェント」から「朝の気分」を取り上げ、すがすがしい音色を奏でた。1995(平成7)年創業のNEXUS(高崎市島野町、星野正史社長)には、心温まる文部省唱歌の「ふるさと」の編曲を送った。第1部を締めくくったのは、故・林光さん作曲の交響曲「調」第3楽章・第4楽章(ロンド)「美しく優雅な調べに観客はうっとりとした聴き入った。青島さんにとりて林さんは師匠であり、私の原点」とつながり



赤星さん・小野さんの話 みんなで声を合わせて歌うことが難しい今、歌い継がれてきた名曲をフルオーケストラで皆さんと楽しめるのは幸せ。覚えたメロディーを家に帰って口ずさんだり、親子で一緒に歌って歌い継いでいただけたらうれしいです。

生の迫力に圧倒 板倉町の黒川信夫さん(67)、千鶴子さん(67)夫妻は「普段はインターネットの動画サイトでクラシックを聴いているので、きょうは生のオーケストラが聴けてうれしい」と感激した様子だった。

家族で訪れた甘楽町のピアノ講師、坂庭知子さん(50)は「林光さんの交響曲は日本人らしい美しい表現で素晴らしい」と満足そう。長女的美津さん(15)は「北風小僧の寒太郎」が懐かしかった。次女の華和さん(12)は「音の振動まで伝わって、迫力がすごかった」とうれしそうに話した。ピアノ発表会で弾いたエルガーの「愛の挨拶」を楽しみに来たという同町の青木柚月さん(16)は「美しく感動した」と目を輝かせた。

クリスマスの贈りもの 第9回アットホームコンサート

高崎商大附吹奏楽部 ボランティアで活躍

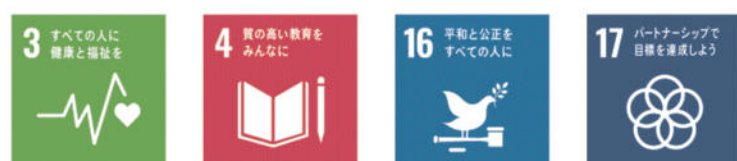


会場の運営には、今年も高崎商科大学附属高吹奏楽部の有志14人がボランティアとして協力した。来場者を笑顔で迎え、受け付けて検温やプログラムを配ってコンサートを支えた。部長の後藤臣都さん(2年)は「お客さまがコンサートを待ち望んでいるのを実感した。混雑しないように誘導した」と話していた。

主催 **上毛新聞社**
本コンサート開催に当たり、多数のご応募をいただき、誠にありがとうございました。

特別協賛 **Amusement & Amenity NEXUS**
<https://nexus-group.jp>

NEXUSグループはアットホームコンサートを通じて、持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS